

平成24年度

学校体育振興事業

研究報告集

平成25年10月

文部科学省スポーツ・青少年局

本研究報告集の活用について

本研究報告集は、文部科学省が平成24年度の「武道等指導推進事業」、「運動部活動再構築事業」の成果を全国各地での取組の参考にさせていただくため、委託先の各教育委員会から提出された研究報告書をもとに、実践事例集をとりまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実を図ったり、安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目 次

1. 実践事例

武道等指導推進事業

【柔道】

「保健体育科教員と地域の指導者との連携によるT T（ティーム・ティーチング）で、段階的な指導により基礎的・基本的な内容の習得を図った実践例」

遠別町立遠別中学校（北海道）・・・・・・・・・・・・・ 1

「地域関係団体の指導者との連携で、教員の指導力と生徒の技能を高めた柔道授業の実践例」

千葉市立磯辺第二中学校（千葉県）・・・・・・・・・・・・・ 3

「地域の指導者による研修会で、教員の指導力を高めた実践例」

新潟市立黒埼中学校（新潟県）・・・・・・・・・・・・・ 7

「地域の指導者のよさを生かし、T Tで授業を行うことにより、安全を確保し、武道の伝統的な考え方を大切にした実践例」

富山市立奥田中学校（富山県）・・・・・・・・・・・・・ 11

「地域の指導者とのT Tで、用具を活用し、生徒の安全を確保した実践例」

太宰府市立学業院中学校（福岡県）・・・・・・・・・・・・・ 15

【剣道】

「地域の指導者と連携を図りながら生徒の意欲を高める実践例」

白老町立萩野中学校（北海道）・・・・・・・・・・・・・ 17

「保健体育の授業（剣道）における地域の指導者の在り方」

喜多方市立山都中学校（福島県）・・・・・・・・・・・・・ 19

「地域の指導者と保健体育科教員の役割分担を明確にして取り組んだ実践例」

小矢部市立石動中学校（富山県）・・・・・・・・・・・・・ 21

「地域の指導者の協力を得て、教員の指導力を高めた実践例」

津山市立津山西中学校（岡山県）・・・・・・・・・・・・・ 23

「視聴覚機器等を活用し、指導の充実を目指した実践例」

大町町立大町中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・・・・ 25

【相撲】

「地域の指導者との連携による、安全な相撲授業の実践例」

石狩市立聚富中学校（北海道）・・・・・・・・・・・・・ 29

「地域の指導者と保健体育担当教員との連携を重視し、女子生徒の意欲を高めた実践例」

志摩市立船越中学校（三重県）・・・・・・・・・・・・・ 31

【なぎなた】

「地域の指導者による専門的な授業実践により、生徒の意欲と技能の向上を図った実践例」

会津若松市立第二中学校（福島県）・・・・・・・・・・・・・ 33

【フォークダンス】

「地域の伝統芸能である民踊を効果的に取り入れたダンス授業の実践例」

嬉野市立嬉野中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・・・・・ 3 5

【現代的なリズムのダンス】

「地域の指導者と連携して授業を行ったことで、教員の指導力を高め、生徒に踊る楽しさを味わわせた実践例」

富山市立藤ノ木中学校（富山県）・・・・・・・・・・・・・・ 3 9

「地域の指導者と連携して、生徒の興味・関心を高めた実践例」

吉野ヶ里町立東脊振中学校（佐賀県）・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

2. 実践事例

運動部活動地域連携再構築事業

【体育の授業】

「地域のスポーツ指導者によるスキー指導で、児童の技能を高めた実践例」

南砺市立井波小学校（富山県）・・・・・・・・・・・・・・ 4 5

「地域のスポーツ指導者と学校の連携により、児童の泳力向上を図った実践例」

東近江市立箕作小学校（滋賀県）・・・・・・・・・・・・・・ 4 7

「地域のスポーツ指導者を体育授業に派遣し、小学校体育学習の充実を図った実践例」

長崎市立形上小学校（長崎県）・・・・・・・・・・・・・・ 4 9

【運動部活動】

「地域のスポーツ指導者の協力を得ながら実施する部活動の推進の実践例」

仙台市立郡山中学校（宮城県）・・・・・・・・・・・・・・ 5 1

「地域から信頼される学校づくりと地域から応援される部活動をめざした実践例」

小美玉市立玉里中学校（茨城県）・・・・・・・・・・・・・・ 5 3

「横浜市内中学校軟式野球部に所属する女子選手による合同チームを作り、部活動への参加の機会を増やした実践例」

横浜市中学校軟式野球女子チーム・横浜市内中学校合同チーム・・・ 5 5

「J F A アカデミー堺との連携により運動習慣の確立を図った実践例」

堺市教育委員会（大阪府）・・・・・・・・・・・・・・ 5 7

「女子サッカー部の創設に向けた地域のスポーツ指導者との連携協力の実践例」

岡山県立林野高等学校（岡山県）・・・・・・・・・・・・・・ 5 9

「スポーツトレーナーと連携し、運動部活動におけるケガの防止等を図った実践例」

長崎市立長崎商業高等学校（長崎県）・・・・・・・・・・・・・・ 6 1

3. 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 4

武道必修化に伴う柔道の安全管理の徹底について（依頼）

（平成25年5月2日付け25ス参体第2号）

武道必修化に伴う柔道の安全管理の徹底について（事務連絡）

（平成25年8月29日付け）

平成24年度学校体育振興事業研究報告集の作成について

（平成25年5月10日付けスポーツ・青少年局長決定）

1 . 実践事例

武道等指導推進事業

保健体育科教員と地域の指導者との連携によるＴＴで、段階的な指導により基礎的・基本的な内容の習得を図った実践例

学 校 名 遠別町立遠別中学校（北海道）第 1 学年

電 話 番 号 01632-7-2034

全校生徒数 73 名（男子 40 名 女子 33 名）

種 目 等 武道（柔道）

1 研究のねらい

地域の指導者を活用することにより、生徒の運動に親しむ態度を育み、技能の向上を図るとともに、事故防止を徹底し、安全かつ楽しく運動を行うことができるようにする。

2 研究の取組体制

（１）校内外指導者運営委員会の設置

①構成メンバー：教育委員会職員，校長，教頭，教務主任，保健体育科担当教員，地域の指導者

②回数：2 回（11／1，2／6）

③内容：指導方針及び指導計画の確認，連絡体制の構築 等

（２）地域の指導者と保健体育科教員との連携

①回数：4 回（11／9，11／14，2／4，2／13）

②内容：指導のねらい，指導内容（取り上げる基本動作や受け身，基本となる技），指導方法，役割分担，個別指導の対応，安全確保に向けた対応 等

3 研究の概要

（１）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

①遠別町教育委員会において，町内に在住する専門的な知識・技能等を有する柔道の指導者を把握し，教育委員会が窓口となり，柔道授業における地域の指導者として確保した。

②地域の指導者は，地域の柔道少年団の指導者として，児童生徒の指導に当たるなど，柔道の指導に対する専門性を有している。

③保健体育科教員と地域の指導者の役割分担

・保健体育科教員…指導計画の作成，授業における全体指導及び個別指導

・地域の指導者…指導計画作成時の安全確保に関する助言，保健体育科教員への技術指導や礼法指導等の助言，授業における示範，個別指導等

（２）柔道の授業における段階的な指導の工夫

①教員が実技講習会で習得した指導方法を生かし，様々な姿勢からの受け身，約束練習を基本とした固め技等を指導した。

②地域の指導者の助言により，柔道を初めて経験する第 1 学年の生徒には，「固め技」を中心とした指導計画を工夫し，安全確保を図った。

③生徒の体力や技能の定着状況を踏まえ，「易→難」，「遅→速」，「低→高」，「単独→相対」，「その場→移動」といった難易度を調整して段階的に指導し，学習内容の確実な習得を図るとともに，事故の未然防止を図った。

④新しい技を指導するときには必ず地域の指導者が示範し，発生しやすいけがの具体例を示すことで，生徒が自ら事故を防止しようとするようにした

⑤毎時間，生徒による授業評価を実施し，「分かったこと」や「できるようになったこと」など，知識や技能の習得状況を把握するとともに，「もっと相手と組んで実践的に学びたい」など，生徒の要望を確認し，授業改善に生かした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 地域の指導者の助言を得ながら，安全に留意した指導計画（礼法，姿勢，組み方，進退動作，崩しと体さばき，受け身を中心とした内容）を立案するとともに，保健体育科教員と地域の指導者との役割分担等を明確にした。

2 蹲踞姿勢からの受け身といった低い姿勢からの練習を重視するなど，難易度を調整した。特に，女子生徒に対する指導に当たっては，筋力や瞬発力が弱いこと等の身体的な特徴を考慮し，運動の負荷や回数等に留意した。

○成果と課題

1 地域の指導者の活用により，段階的な安全面に配慮した柔道の授業を実施することができた。

・中学校第 1 学年…8 時間扱いのうち，負傷者 0 件 ・中学校第 2 学年…8 時間扱いのうち，負傷者 0 件

2 ほとんどの生徒が，武道に親しみ，運動を楽しむことができた。

・授業評価「柔道の授業は楽しいですか」の設問で「楽しい」又は「やや楽しい」と回答した生徒の割合
第 1 学年…96% 第 2 学年…90%

研究内容

【受け身の学習】

頭を床に打たない練習を、段階的に繰り返し行った。



【立ち膝からの崩しの練習の様子】

相手の重心を崩す練習を低い姿勢で行った。



【地域の指導者による示範】

地域の指導者は示範を、保健体育科教員は全体指導をした。



【柔道授業の約束事項】

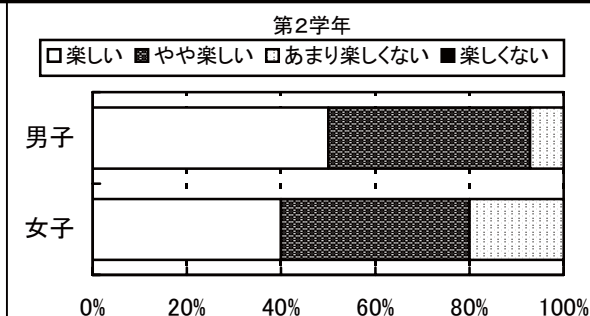
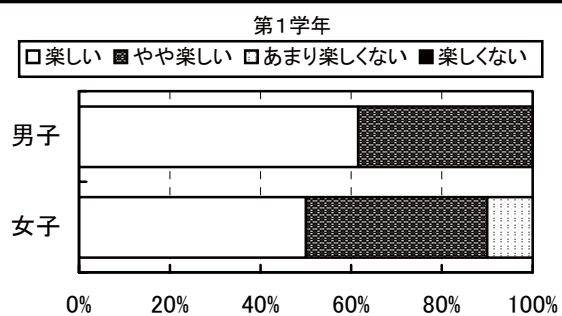
単元の導入時に生徒に配付・説明し、指導の徹底を図った。

柔道授業の約束事項

- 1 元気に機敏に行動し、常に課題意識をもって授業に臨みましょう。
- 2 互いに学びあう学習を心がけ、指導助言は真剣に聞きましょう。
- 3 練習場所に対する「礼」、あいさつ時の「礼」、お互いの「礼」をいつも心がけましょう。
- 4 靴や脱衣は整理し、決められたところにきちんと置きましょう。
- 5 柔道衣は大切に扱い、いつも清潔にしておきましょう。
- 6 周囲の安全や自己の安全に常に気を配り練習しましょう。

【柔道の授業評価の結果】

「柔道の授業は楽しかったですか。」という設問に対する生徒の回答の割合



【生徒の感想】

授業後の生徒の感想

- 柔道は初めての経験でしたが、一つ一つじっくり練習できたので受け身などができるようになりました。
- 自分を律して礼儀を守るということを学びました。日常生活でも生かしたいです。
- 相手と組み合う学習は、他の体育の授業にはないことなので、相手を思いやることの大切さを学びました。

【地域の指導者及び教師の声】

授業後の地域の指導者と保健体育科教員の感想

- 生徒は大変礼儀正しく、覚度も早く、とても助かりました。これを機会に学校や生徒とのかかわりを更に深めたいと思います。(地域の指導者)
- 複数で指導することを通じて安全確保を徹底することができました。また、自分自身の技能や指導力の向上も図られ、地域の指導者にはとても感謝しています。(教員)

**地域関係団体の指導者との連携で、
教員の指導力と生徒の技能を高めた
柔道授業の実践例**

学 校 名 千葉市立磯辺第二中学校（千葉県）第1・2学年
電 話 番 号 043(273)6651
全校生徒数 296名（男子156名 女子140名）
種 目 等 武道（柔道）

- 1 研究のねらい
 - （1）地域の指導者と連携した柔道の授業により、柔道に対する生徒の興味や関心、技能を高める。
 - （2）地域の指導者と連携し柔道の授業を行う中で、教師の指導力を高める。
- 2 研究の取組体制
 - （1）柔道の地域の指導者を活用するに至った経緯
柔道、ダンスの指導経験の浅い教員が多かったため、ダンスについては、千葉市教育委員会主催のダンス実技指導者講習会に参加するなどの研修を重ね授業に臨んだ。一方、柔道については、より安全に配慮した指導を行えるようにする必要があることから、千葉市柔道協会の紹介による地域の指導者に授業のサポートに入ってもらい、生徒への指導を行うこととした。
 - （2）地域の指導者と保健体育科教員、千葉市教育委員会との連携
事前に学校、千葉市教育委員会、地域の指導者の三者で協議し、指導計画のどの時間で地域の指導者が指導補助に入るか検討した。その結果、地域の指導者の都合のつく範囲で第1学年及び第2学年の男女の授業のサポートをしてもらうことになった。
- 3 研究の概要
 - （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ①指導者は千葉市柔道協会の理事長であり、長年子ども達の指導経験を持っている。今年度、千葉市教育委員会主催の柔道実技指導者講習会の講師も兼ねている。
 - ②実際の授業では、単元開始からT2として授業の補助に入ってもらい、指導していただいた。教師主導で授業を行っていく中で、柔道の伝統的な考え方や歴史について、安全な受け身を取るコツなど地域の指導者の指導を中心にする場面も計画した。
 - ③学校に配属されたスクールサポーターの方にもT3としてできる限り授業に参加していただき、三人体制で指導に当たった。
 - （2）単元計画や指導法の工夫
 - ①初めて柔道を学習する1年生でも柔道の特性に触れることができるよう、受け身の習得の段階から投げる動作を取り入れ、固め技の習得と投げ技の習得を同時進行で行った。
 - ②三人体制で指導する際は、示範する2人の指導者の動きのポイントをもう一人の指導者が生徒に説明した。また、分担して個別指導をした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 体の使い方、身のこなしなどを身につけさせるため、前転や後転を準備運動に取り入れた。
- 2 ルールや禁止事項を守らせ、練習場の安全を確かめさせながら活動させた。
- 3 投げられたときの対応や防御である「受け身」の仕方をしっかり身につけさせた。
- 4 「受」と「取」の約束練習に十分な時間をかけ、身につけさせた。

○成果と課題

- 1 生徒は初めて行う柔道の授業に興味を持ち、積極的に取り組むことができた。単元の配当時数が少なかったため、技能は受け身の習得が中心となったが、投げ技、固め技の両方ある程度学習できたことは、次年度の学習に向けた意欲付けとなった。学習の実施時期については、安全面や意欲面で、あまり寒くない時期に単元を終了するほうが望ましい。
- 2 地域の指導者からは、子ども達への丁寧でわかりやすい指導の方法を学んだ。それだけでなく、学校内では経験、体験できない大変参考になる話を聞かせていただいた。また、生徒達との接し方についても大変勉強になり、教員自身が勉強になった。
- 3 今回は、TTという形で指導を行うことができたが、一人で指導していく際の全体指導、個別指導の在り方や、安全面での配慮の仕方等について研修を重ねる必要を感じた。

○ 研究内容

【固め技の対人練習（試合形式）】

背中合わせて座り，合図で固め技の攻防を始める。



【礼法の指導】

授業開始時の様子，準備ができた生徒から正座をして待機。



【個別指導】

生徒個々にきめの細かいアドバイスをしている。



（基本動作：身体動作の練習）

二人組になり，横にすり足で移動する練習。



【１年女子の授業前後アンケート結果】（１年Ａ組 １４名 １年Ｂ組 １４名 計 ２８名）

柔道へのマイナスイメージが減少し，意欲が向上した

柔道のイメージの変容	〈学習前〉	「痛そう」(16名)	「危険そう」(16名)
		↓	↓
	〈学習後〉	(6名)	(9名)

授業前は柔道に対して痛く，危険そうなイメージをもっている生徒が多かったが，授業で安全な受け身，投げ方を学び，「痛そう」「危険そう」というイメージを持つ生徒が少なくなった。また，授業前には来年も柔道をやりたい，やってもいいという生徒は50%の14名だったが，授業後は78.6%の22名になった

【成 果】

地域の指導者の専門的できめ細やかな指導を受けたことにより，ほとんどの生徒に柔道は安全で楽しいスポーツであることを実感させることができただけでなく，柔道の特性にも触れさせることができた。また，外部指導者とTTで授業を行うことで，教師も礼法や技のポイントの指導法など，多くのことを学ぶことができた。

【実践校としての感想】

今回，地域の指導者に協力していただいたことにより，より質の高い授業展開をすることができた。アンケート結果からも，生徒の興味関心が高まったこと，技能が身につく，「痛そう」「危険そう」というイメージも取り除くことができた。また，専門家の指導法も学ぶことができ，とても参考になった。学んだことを活かしていきたい。

様式
テーマ

「はじめて武道(柔道)を体験する生徒でも安全に運動の楽しさに触れ攻防を楽しむことができる指導の工夫」

想定授業 学 校 千葉市立磯辺第二中学校
学 年 第1学年
生 徒 85名(女子37名)
場 所 武道場

① 単元名	中学校第1学年 武道(柔道)		
② 指導内容の概要	③ 学習指導要領の内容(1.2学年)	④ 学習指導要領解説の記載内容(1.2学年)	
第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。また、武道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	1 技能	(1)次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。 ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。	「相手の動きに応じた基本動作」とは、相手の動きに応じて行う姿勢と組み方、進退動作、崩しと体さばき、受け身のこと。受け身には、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身がある。 「基本となる技」とは、投げ技の基本となる技と固め技の基本となる技のこと。投げ技は取と受の双方が比較的安定して投げたり、受け身をとったりすることのできる技のこと。また、固め技は、取と受の双方が、比較的安定して抑えたり、応じたり(逃れたり)することのできる技のこと。 (例示) ○投げ技 ・取は後ろさばきから体落としをかけて投げ、受は横受け身をとること。 ・取は前回りさばきから大腰をかけて投げ、受は前回り受け身をとること。 ・取は前さばきから膝車をかけて投げ、受は横受け身をとること。 ・取は前さばきから大外刈りをかけて投げ、受は後ろ受け身をとること。 ○固め技 ・取は「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えること。 ・取はけさ固め、横四方固め、上四方固めで相手を抑えること。 ・受は(中略)抑えられた状態から、相手を体側や頭方向に返すこと。
	2 態度	(2)武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。	・相手と直接的に攻防するという特徴があるので、相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組もうとすること。 ・練習やごく簡単な試合を行う際に、防具や用具の準備や後片付け、審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすること。 ・練習の際に、仲間の練習相手を引き受けたり、技の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとする。
	3 知識、思考・判断	(3)武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	【知識】 ・武道は、技を身に付けたり、身に付けた技を用いて相手と攻防する楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること、武技、武術などから発生した我が国固有の文化として今日では世界各地に普及し、(中略)主要な競技として行われていること。 ・武道は、単に試合の勝敗を目指すだけではなく、技能の習得などを通して礼法を身に付けるなど人間としての望ましい自己形成を重視するといった考え方があること。(選択せず) ・武道の各種目で用いられる技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあること。 ・柔道では主として瞬発力、筋持久力、巧緻性などがそれぞれの技に関連して高められること。 ・ごく簡易な試合におけるルール、審判や運営の仕方があること。 【思考・判断】 ・活動の仕方、組み合わせ方、安全上の留意点などの学習した内容を、学習場面に適用したり、応用したりすること。 (例示) ・技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・課題に応じた練習方法を選ぶこと。(選択せず) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめること。
	内容の取扱い	カ「F武道」の(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分留意すること。	

第1学年の内容	
⑤ 授業のポイント(生徒への発問や声かけの仕方など)	
【受け身】 それぞれの受け身の形やポイントは何か？ →あごを引く、体の向き、脚の形、畳のたたき方	
【基本動作と投げ技】 基本となる投げ技の技能を高めるには、どのようなことを意識したらよいだろう？ →崩し・体さばき・技のかけ・受け身をまとめた動作としてとらえる。	
【固め技】 上手く相手を抑え込んでみよう。 →自由に抑え込ませる体験をさせてから、「抑え込みの条件」・姿勢・入り方・返し方	
【攻防の展開】 練習したことを生かしてかかり練習や約束練習、条件をつけた簡単な自由練習してみよう。 →技の形を正しく行うように心がけよう。 相手の動きをよく見て、崩して技をかけてみよう。	
自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方があること。 相手を尊重する気持ちを込めて行うことが大切である。	
分担した役割を果たすことは、練習や試合を円滑に進めることにつながる。	
【仲間との協力】 3人組で技の練習をして、観察役の人が取と受にアドバイスをしてあげよう。	
【安全】 技を練習するときには、まず周囲の確認をしよう。 お互いに約束事を守り、技に挑戦してみよう。	
【武道の特性と成り立ち】 武道は、日本固有の文化として発展し、今ではオリンピックでも行われているよ。 学習した技を用いて相手と攻防する楽しさがあるよ。	
【技のポイント】 それぞれの技の名称やポイントを挙げてみよう。 →崩し方、体さばき、技のかけ方など	
【高まる体力】 柔道では瞬発力、筋持久力、巧緻性が高まるよ。	
【試合の行い方】 ルールを守り、安全に試合をすることが大切だよ。	
【課題解決】 学習したことをもとに、柔道の技術に関する自己の課題を分析してみよう。→投げ技、受け身、固め技	
【円滑な運営】 練習や試合をスムーズに行うために、自分ができることは何だろうか？	
【安全】 お互いがけがをせず、思い切り柔道をやるためには、どんなことに気をつけたらよいか考えよう。	
関心・意欲・態度	
思考・判断	
運動の技能	
知識・理解	

前転等のの柔道に結びつく補助運動を多く取り入れ、「怖い」「痛い」という柔道への抵抗感を減らす。

受け身に時間をかけ身に付けさせる。投げ技と固め技を並行して学習させ、ごく簡単な連絡技の原理についても触れる。

1	2	3	4	5	6	7	8
オリエンテーション ・体ほぐし ・柔道に結びつく補助運動 ・柔道の歴史 ・礼法 ・柔道衣の着方たたみ方	準備運動・補強運動						
	受け身の反復練習－後ろ受け身・横受け身・前回り受け身						
	受け身を身につける 後ろ受け身・横受け身・前回り受け身	固め技を身につける		・けさ固め 条件をつけたの攻防			単元のまとめ
		投げ技を身につける		・大腰・膝車・体落とし・出足払い			
		整理運動・振り返り					

単元のまとめ

評価規準例

運動の技能(～ができる)

- ①正しい形を身に付け、相手の技に応じて受け身をとることができる。
- ②相手の動きに対応して、基本動作を行い、比較的安定した状態で投げ技をかけることができる。
- ③「抑え込みの条件」を満たして、相手を抑え込んだり、逃れたりすることができる。
- ④条件をつけた自由練習において、相手の動きに応じて、技の形を正しく行いながら、攻防を展開することができる。

主に観察による評価部分

関心・意欲・態度(～しようとしている)

- ①武道(柔道)の特性に関心をもち、受け身や技ができる楽しさや喜びを味わえるよう、積極的に練習に取り組もうとしている。
- ②礼儀作法を重んじて相手を尊重し、自分で自分を律する態度をとうとうとしている。
- ③分担した役割を果たそうとしている。
- ④自己や仲間の安全に留意して、受け身や技に取り組んでいる。

知識・理解(言ったり書きだしたりしている、具体例を挙げている)

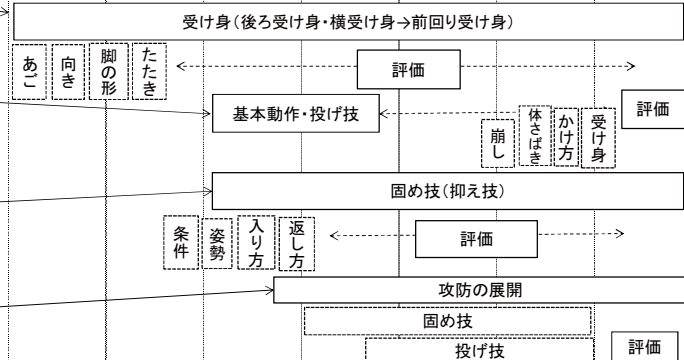
- ①武道(柔道)の特性や成り立ちや関連して高まる体力について理解し、書き出している。
- ②それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントを言ったり書き出したりしている。
- ③固め技のごく簡易な試合におけるルールや勝敗の決定の仕方について具体例を挙げている。

主に学習ノート等による評価部分

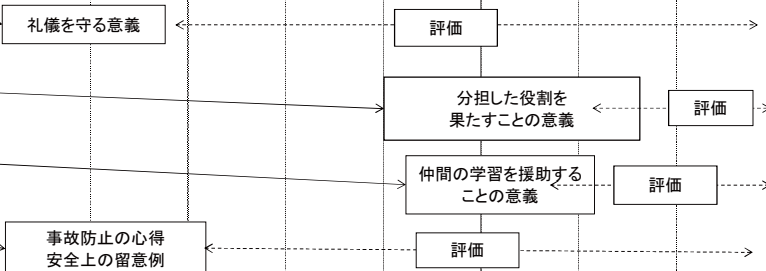
思考・判断(～している)

- ①それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントを見付けている。
- ②分担した役割に応じた協力の仕方を見付け、練習の場面に当てはめている。
- ③学習した安全上の留意点を練習の場面に当てはめている。

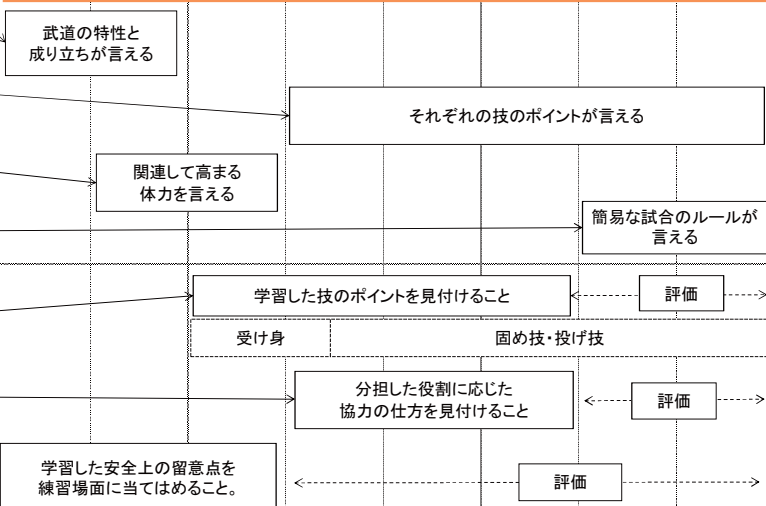
基本動作や基本となる技を用いた攻防(投げ技・受け身・抑え技)



技ができる楽しさや喜びを味わい、積極的に技に挑戦しようとする。



柔道の基本事項を理解し、攻防を楽しむための運動の行い方を工夫する。



①	②		①		③	④	観察
			①	②	③		ノート
		①		②		③	④
	①		②			③	④
							③

地域の指導者による研修会で、教員の指導力を高めた実践例

学 校 名 新潟市立黒埼中学校（新潟県）第1学年

電 話 番 号 025(377)2049

全校生徒数 605名（男子311名 女子294名）

種 目 等 武道（柔道）

1 研究のねらい

- （1）地域の指導者を活用することによる柔道授業の安全指導と授業成果について有効性を探る。
- （2）地域の指導者を導入する際の課題とその解決策を探る。

2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、研究の推進にあたる。
 - ①構成メンバーは、新潟大学教授、新潟県柔道連盟普及委員、新潟市中学校教育研究会保健体育部副部長、新潟市立高志中等教育学校 PTA 副会長、新潟市教育委員会嘱託指導主事である。
 - ②連絡協議会2回（11/13, 12/6）、先進校視察1回（1/16）、新潟市教育委員会主催の授業研究会及び映像資料作成打ち合わせ会1回（1/22）を実施した。
- （2）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置
 - ①武道の単元に入る前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を実施した。
 - ②保健体育科教員と地域の指導者による「打ち合わせ用プランニングシート」の開発と改良をした。

3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ①学校と事務局で新潟県柔道連盟所属の地域の指導者に協力を依頼した。
 - ②今回の地域の指導者は、新潟県柔道連盟普及員であった。昭和53年から中学校区内で少年柔道教室を主宰し、他地区の中学校での指導を2年経験している。
 - ③地域の指導者がかかわる場面と具体的な内容を、プランニングシートに明記し、授業前に確認した。地域の指導者は受け身や礼法、技の練習の際に十分にできていない生徒への個別指導、技の技能ポイントの解説及び「形の試合」の評価の観点を、実際の動きを通して説明した。
- （2）保健体育科教員の指導の工夫
 - ①本市主催の授業研修会（8月）と実技研修会（9月）で研修した内容を活かし、技の評価の観点を明確にした生徒の相互評価を行う授業を立案した。
 - ②技の評価の観点については、地域の指導員の助言のもとに作成し、大きく印刷して掲示した。
 - ③「形の試合」とは、技のできばえを相互評価するものである。実際の試合に近い形式で行い（試合者2名、審判3名）、評価の後で、その根拠とアドバイスを伝える場面を作り、生徒同士のかかわりの中で技能の向上を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 施設・設備の安全確保・・・ヒーターでの暖房、ラインテープによるエリアの確保。
- 2 実態に応じた段階的な指導・・・座った姿勢、立ち膝、立ち技、「形の試合」という段階的指導。
- 3 複数の目での危険の察知・・・教員と地域の指導者の協力による安全についての個別指導の充実。

○成果と課題

- 1 地域の指導者を活用することによって、生徒が安心感をもち、技能の向上を実感できた。
- 2 地域の指導者との打ち合わせ時間の捻出が課題であったが、プランニングシートが有効に働いた。

○ 研究内容

【地域の指導者による説明】

しっかりとした示範で生徒の理解が確実にあった。



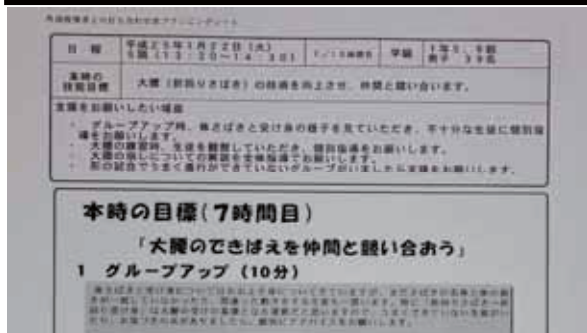
【かかわりを生む相互評価】

評価の観点にそって判定し、アドバイスをする。



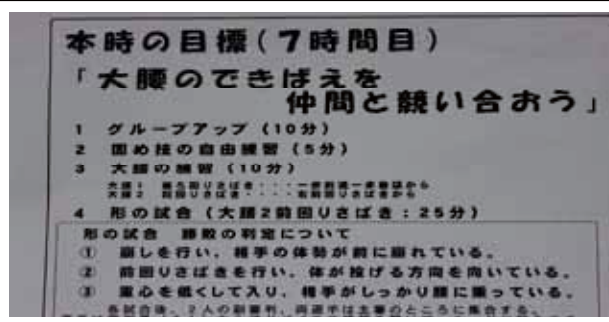
【打ち合わせ用プランニングシート】

場面と具体的な内容を明記し、打合せ時間を短縮した。



【技の評価の観点を明確に示す掲示】

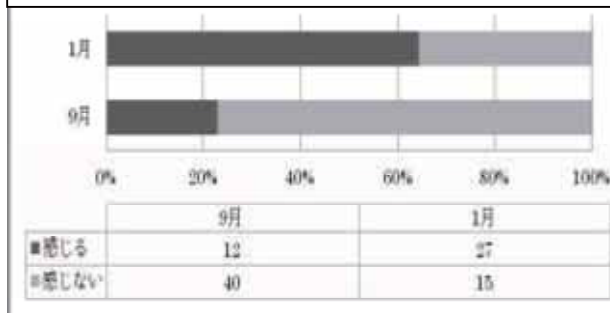
「形の試合」ではこの観点について相互評価する。



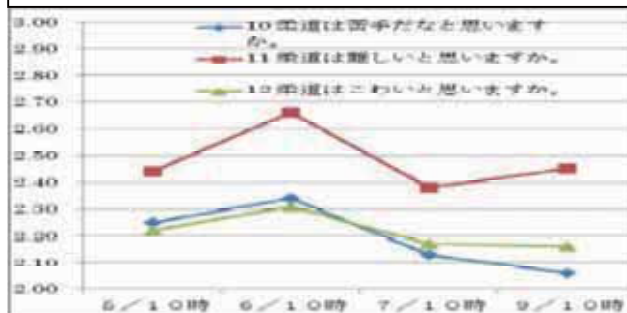
【教員と生徒の意識の変化】

市内の保健体育教員の9月と1月の意識・生徒の授業開始時と終了時の意識が変化していることがわかる。

「地域の指導者は必要とを感じる」と回答した教員の割合



「苦手」「難しい」「怖い」と感じた生徒の意識の変化



【地域の指導者は必要性・生徒の不安】

地域の指導者への期待感が高くなり、生徒の不安は解消へ。

- ①「地域の指導者は必要とを感じる」と回答した教員の割合は、9月が23%だったのに対し、1月は64%になった。また、指導経験が浅い教員ほどその傾向が強かった。
- ②柔道に対して、「怖い」「難しい」「苦手」といったマイナスのイメージは、単元が進むにつれて減少していった。また、技能の伸びを実感する生徒も多かった。

【研修の成果を活用した、かかわりを通した学習】

相互評価というかかわりを通して技能・意識が高まった。

「形の試合」での相互評価を通して、生徒同士が教え合う場面を設定したことで、自分の動きのポイントに気づき、以降の練習に活かす姿が見られた。

また、授業評価では、「動きが分かった」「進んで学習した」「精一杯運動した」などの項目が、授業の前半と後半を比較して、向上していた。

展開	時	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
はじめ		ねらい 柔道の学習の見通しをもとう。 柔道の伝統的な所作，基本動作（礼法・体さばき）を理解して身につけよう。					
		学習の重点 ・ 柔道の特性，安全に関する留意点 ・ 柔道の特性，基本動作（受け身・体さばき）					
	1	○ オリエンテーション ・ 柔道の特性，礼法（ＳＴ） ○ 柔道着の着方（ＭＴ） ○ 受け身 ・ 後ろ受け身（ＭＴ），横受け身（ＳＴ）	① ②				観察
	2	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：ＭＴ） ・ 後ろさばきと横受け身 ・ 前さばきと横受け身 ・ 前回りさばきと前回り受け身 ・ 相手正面への継ぎ足と後ろ受け身 ・ 相手横への継ぎ足と後ろ受け身 ○ 固め技 ・ 袈裟固め，横四方固め（ＳＴ） ○ 大外刈り（ＭＴ・ＳＴ） ○ 礼法指導（ＭＴ）	③		①	②	観察
なか	3	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：ＭＴ） ○ 固め技 ・ 袈裟固め，横四方固め（ＭＴ） ○ 大外刈り（ＭＴ・ＳＴ） ○ 支え釣り込み足（ＳＴ） ○ 礼法指導（ＭＴ）	③		① ②		観察
		ねらい 身につけた基本動作から立ち技を習得しよう。 安全に留意して技の練習をしよう。 形の試合で自分の役割を果たそう。					
		学習の重点 ・ 立ち技（大外刈り・支え釣り込み足・大腰）の習得 ・ 安全に関する留意点の理解 ・ 形の試合の運営方法と技の判定					
	4	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：ＭＴ） ○ 固め技 ・ 袈裟固め，横四方固め（ＭＴ） ○ 大外刈り（ＭＴ・ＳＴ） ○ 支え釣り込み足（ＳＴ） ○ 形の試合（大外刈り・支え釣り込み足：ＭＴ） ○ 礼法指導（ＭＴ）	④ ⑤	①			観察 学習カード

展開	時	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
なか	5	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：MT） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 大外刈り（MT） ○ 支え釣り込み足（MT） ○ 形の試合（大外刈り：MT） ○ 大腰（ST） ○ 礼法指導（MT）		②		①	観察 学習カード
	6	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：MT） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 大腰1：後ろ回りさばきから（ST） ○ 大腰2：前回りさばきから（ST） ○ 礼法指導（MT）		②	③		観察 学習カード
	7 本時	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：MT） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 大腰2：前回りさばき（ST） ○ 形の試合（大腰2：前回りさばき：MT） ○ 礼法指導	⑤		③		観察 学習カード
まとめ		ねらい 崩しを意識しながら、よりスムーズに相手を投げよう。 身につけた立ち技で自由練習を安全に行おう。					
		学習の重点 ・ 立ち技（大外刈り・支え釣り込み足・大腰）の復習 ・ 自由練習での留意事項					
	8	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：MT） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 技の復習（大外刈り・支え釣り込み足・大腰：MT・ST） ○ 礼法指導（MT）	③		③	②	観察 学習カード
	9	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習：MT） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 技の復習（大外刈り・支え釣り込み足・大腰：MT・ST） ○ 自由練習（MT・ST） ○ 礼法指導（MT）			③	③	
	10	○ 技の動きを利用した基本動作（体さばき・受け身の練習） ○ 固め技の自由練習（MT） ○ 技の復習（大外刈り・支え釣り込み足・大腰：MT・ST） ○ 技能テスト（MT） ○ 礼法指導		①	③		観察 学習カード 技能テスト

地域の指導者のよさを生かし、ＴＴで授業を行うことにより、安全を確保し、武道の伝統的な考え方を大切にした実践例

学 校 名 富山市立奥田中学校（富山県）第１・２学年
電 話 番 号 ０７６（４４１）３６２８
全 校 生 徒 数 ７３１ 名（男子 ３５２ 名 女子 ３７９ 名）
種 目 等 武 道（柔道）

１ 研究のねらい

- （１）専門知識と高い技能を有する地域の指導者の協力を得て授業を行うことで、系統だった指導を行うとともに、初めて柔道に触れる生徒が安心して学習に取り組むことができる授業環境を担保する。
- （２）地域の指導者の助言を生かして授業を行うことによって、生徒が柔道の歴史や伝統について深く理解し、我が国固有の伝統文化に親しみながら授業に取り組むことができるようにする。

２ 研究の取組体制

- （１）研究推進委員会を設置して１年間の見通しをもつとともに、県教育委員会や市教育委員会と連絡調整を行った。
 - ①構成メンバーは、校長、教頭、教務主任、保健体育科教員、柔道部顧問とした。
 - ②連絡協議会 ３回（８月２７日、９月２５日、１０月１日）
- （２）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置
単元が始まる前に、地域指導者と指導計画の立案に向けた検討会を開催し、教員の思いと地域の指導者の知見を織り交ぜながら、生徒の実態に即した授業展開を話し合った。

３ 研究の概要

（１）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

県の「武道・ダンス指導推進事業」における地域指導者派遣事業から、柔道を専門とする指導者の派遣を依頼し、富山市体育協会職員の方を派遣してもらった。長年県営武道館で地域の小中学生を対象に柔道を指導しており、高い指導力を有している方である。

教員と地域の指導者によるＴＴ形式で、１年女子、２年男女の授業を進めた。教員の計画した内容に沿って、教員が主に授業を進め、安全指導や礼法、技術面のポイント、手本の実演を地域の指導者が担当した。また、授業前に地域の指導者と教員で、授業のねらいや指導のポイントを共通理解し、連携を図った。

（２）安全指導、歴史・礼法の指導の工夫

- ①小学生や初心者への指導に精通した指導者の助言のもとに指導を行うことで、安全確保に不可欠な事項を確実に理解させ、基本的な動作を順序立てて身に付けさせた。
- ②柔道の礼法や所作由来の背景、武道の伝統的な考え方を丁寧に伝えながら授業を行った。
また、その歴史についてまとめた学習カードを授業で活用することで、日本固有の伝統文化に対する生徒の関心を高めるよう工夫した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- １ 地域の指導者に各クラスの実態を具体的に伝え、生徒の能力に適した指導内容を検討し、安全に留意し、無理のない指導となるよう内容を精選した。また、技能の習得に入る前に受け身動作の指導を重点的に行い、自分の身を守る動作の大切さを理解させ、危険回避のための技能を身に付けさせた。
- ２ 集団で同時に同じ動作を行う場合は、整列の仕方や十分な活動場所の確保に留意し、不意の転倒や衝突による事故が起きないように、場の設定には細心の注意を払った。

○成果と課題

- １ 安全に活動するために場の設定や指導内容の精選を行うとともに、生徒には身を守る技能を確実に身に付けさせることで、けがや事故がゼロで、安全に授業を進めることができた。
- ２ 柔道の一つ一つの動作や礼法、技能の背景にある武道の考え方を、深い知見をもつ指導者に丁寧に教えていただく機会をもつことで、生徒の柔道への関心をより高めることができた。

○研究内容

【前回り受け身の指導】

「低く」「ゆっくり」「安全」なものから始め、徐々に段階的に移行していく指導をした。



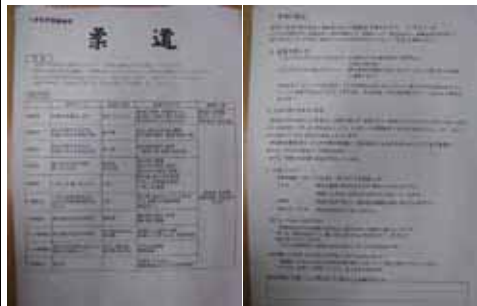
【固め技の指導】

「頭部」と「肩」を抑え込む基本的な指導とともに、細かな手足の動きや安定した抑え方等の応用的・発展的な指導も行った。



【授業内容を理解するための工夫】

単元全体の流れや学習内容をまとめた学習カードを作成した。



授業者が事前打ち合わせで、地域の指導者から指導を受けた内容を基に学習カードを作成し、生徒の柔道への理解や関心が深まるように工夫した。

【安全面に重点をおいた指導の工夫】

学習カードの提示：受け身の技能習得が難しい生徒への支援

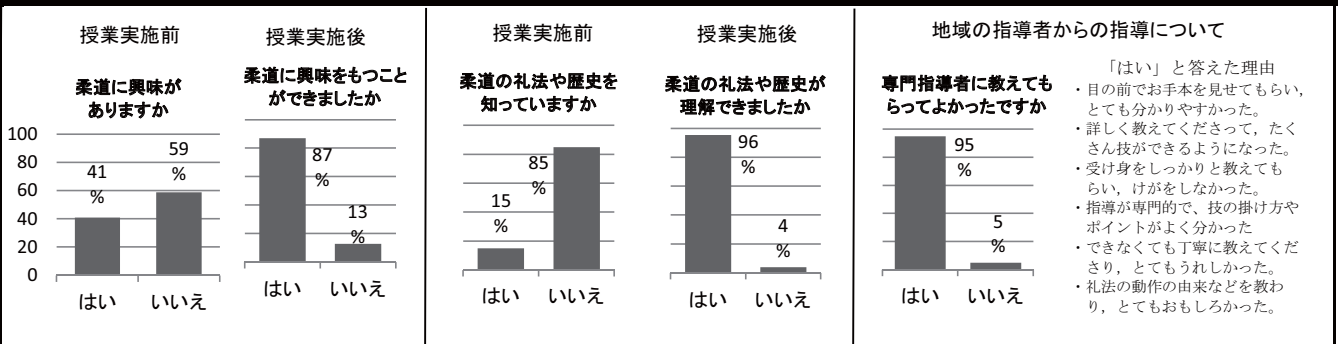


けがや事故を予防するために、単元の初めに、正しい組み方や受け身の指導を重点的に行った。

女子は、男子に比べ、言葉や模範演技による指導だけでは、正しい動きを習得できない生徒が多く見られた。そこで、正しい受け身をはじめ、相手に崩された時、前後左右の各方向の正しい受け身の仕方について図示した学習カードを提示することで、受け身動作を習得できるように工夫した。

【アンケートによる生徒の実態把握】

柔道への関心、学習内容の定着、専門指導者からの指導について(対象者：1年女子、2年男女359名)



【授業の成果】

安全面、柔道への関心、知識・技能の定着について

- 安全面について
全学年を通して授業中のけがはゼロであった。これは、地域の指導者と連携し、生徒の実態に応じた指導となるよう、指導内容の精選をはじめ、受け身や安全のための知識の定着を重視したためと考えられる。
- 生徒の柔道への関心について
授業実施前後で、生徒の柔道への関心は大きく変容した。地域の指導者による示範を間近で見ることで、技能習得への関心を高めた生徒が多かった。
- 技能の定着について
示範(よい動き)を見せ、複数で指導することにより、各個人に目が行き届き、技能の定着が図られた。

【授業者の感想と今後の課題】

地域の指導者との連携の有効性と学校教員の課題

研究当初は施設の状況や生徒の実態等から、安全面を最優先し、固め技を中心に指導した。運動量の確保や、生徒が柔道の特性に触れることができるか少し懸念されたが、生徒は意欲的に活動し、アンケート結果から地域の指導者に指導を受けることの有効性が確認できた。これは、地域の指導者の高い専門性に触れたことが、生徒の知識や技能習得への意欲をかき立てる大きな要因となっていることを示している。また、専門家による指導法や、洗練された導入法のスキルの高さを目の当たりにし、以後の指導に取り入れるとともに、研修の必要性を痛感した。

地域の指導者との連携により、生徒の関心の高まりや知識・技能の定着への有効性が明らかになるとともに、教員自身が、地域指導者の専門性と豊かな経験に学び、自らの指導力向上のために努力する必要があると考える。

【単元計画】

1 単元名 武道（柔道）

2 対象学年 第2学年

3 単元の特性

柔道は相手と直接組み合って、基本となる技や得意技、連絡技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「一本」を目指して勝敗を競い合う運動である。

4 単元の目標

- (1) 自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。
- (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度をとることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方や、試合の仕方を工夫することができるようにする。

5 指導計画

時	学習内容	学習活動	備考
1	オリエンテーション	- 柔道衣の扱い方、帯の締め方を学ぶ。 - 柔道の歴史、礼法を知る。 - 単元全体の学習の進め方を理解する。	
2	基本となる技の習得	受け身(後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身)	地域指導者との連携授業
3		- 受け身、組み方、崩し - 崩しの約束練習	地域指導者との連携授業
4 ～ 5		- 受け身、崩し、体さばき - 崩し、体さばき、受け身を一連の流れで行う約束練習	地域指導者との連携授業
6	固め技の基本動作～相手の動きを封じる方法を見つけよう～	「抑え込みの条件」を理解し、条件を満たして相手を抑える方法を見付ける。 - 相手に抑えられた状態から、相手の技を返す方法を見付ける。	地域指導者との連携授業
7 ～ 8	固め技の習得	- 固め技の基本動作を身に付ける。(けさ固め、上四方固め、横四方固め) - 抑え込みゲーム	地域指導者との連携授業
9	投げ技の習得	崩し、体さばき、受け身を用いて、投げ技の基本となる技に取り組む(膝車、大腰)	地域指導者との連携授業
10	習得した技の発表	- 組み方、崩し、体さばき、受け身のできばえを発表する。 - 身に付けた固め技で攻防を楽しむ。 - アンケートに答える。	地域指導者との連携授業

地域の指導者とのＴＴで、用具を活用し、生徒の安全を確保した授業の実践例

学 校 名 太宰府市立学業院中学校（福岡県）第１学年
電 話 番 号 092 (923) 2521
全校生徒数 790 名（男子 401 名 女子 389 名）
種 目 等 武道（柔道）

- 1 研究のねらい
 - （１）武道の特性を伝えるとともに、生徒の安全を配慮した授業をつくる。
 - （２）安全面を配慮した、用具や練習場、練習方法を工夫した授業をつくる。
- 2 研究の取組体制
 - （１）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置
 - ①地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を実施した。
 - ②地域の指導者と教師の役割分担を確認した。
 - （２）校内での保健体育科教員の指導技術の向上
 - ①保健体育科教員が実技講習会に参加し研修を受けた。
 - ②実技講習会参加教員と柔道経験教員による技術伝達・講習会を実施した。
 - ③用具や武道場の安全確認、事故発生時の応急処置や連絡体制を整備した。
- 3 研究の概要
 - （１）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ①教育委員会より地域の指導者を各クラス３時間の配当を受けた。
 - ②各クラス３時間配当のため、単元中のポイントとなる授業時に来校していただく。
 - ③授業規律等については教員側が指導、技のポイント（崩しや体さばき等）や受け身、注意事項（安全面も含めて）などを地域の指導者に指導していただいた。
 - （２）安全の指導の工夫
 - ①準備運動（ストレッチ）・補強運動を徹底して行った。
 - ②技の DVD（視聴覚教材）や安全マットを利用した。
 - ③受（技を受ける人）を教員が、取（技をかける人）を地域の指導者が行うことで一連の動作の中で指導することができた。
 - ④受け身を教員が行うことで、その動作について地域の指導者が説明・指導することができた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 体重別に分けた練習相手の設定
同じくらいの体重や似通った体形の者同士を組ませて、お互いに練習することによって、無理なく安全に練習ができるようにした。
- 2 安全マットの使用
投げ技の練習時に、安全マットを使用し、安全かつ痛みを軽減する場の工夫を行った。

○成果と課題

- 1 武道の特性が理解できた
 - ミニゲーム（手押しゲーム）を行ったり、地域の指導者に相手の力を利用して技をかけるタイミングなどを示範していただいたりしたことで、柔道の特性を理解することができた。
 - 固め技や膝をついた姿勢からの攻防を行ったことで、多くの生徒が安全に柔道の攻防の楽しさを味わうことができた。
- 2 練習方法の工夫
 - 体重や技能習得の程度で練習内容を工夫したことにより、より安全に授業を進めることができた。
 - 安全面を重視したことはよかったが、柔道の特性の一つである、相手の力を利用した投げ技の攻防まで指導する十分な時間を確保したい。

○ 研究内容

【単元の導入段階での武道の伝統的な考え方の学習】

柔道の単元開始時に、地域の指導者からの話を聞く。



【柔道衣の着脱・帯の締め方の学習】

1年女子が帯の締め方を学習している様子。



【安全面に留意するため安全マットを使用】

安全マットを利用して投げ技の練習をした。



【固め技の学習】

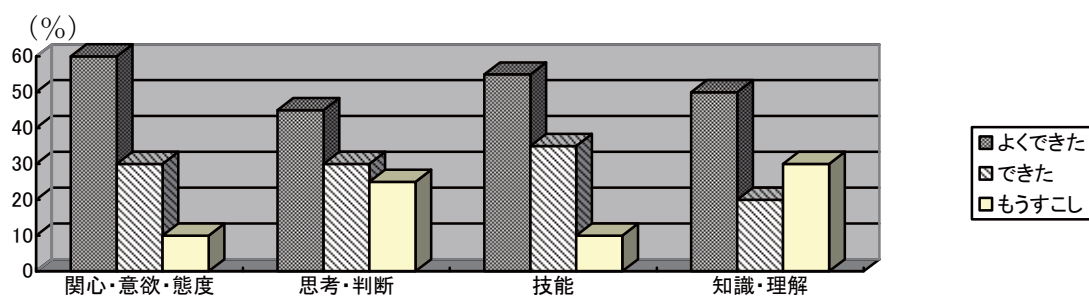
地域の指導者から固め技の指導を受けている様子。



【柔道の授業を終えての観点別による自己評価の結果】

1年男子の自己評価の結果の集計より

4観点において、ほとんどの生徒が良い評価をしていることがわかる。



【地域指導者との連携による授業を通して】

段階的な指導による授業の成果

1年生は、ほとんどが柔道を経験するのが初めてということで、導入段階では、技を身につけて試合で勝つことだけを目指すのではなく、礼法や相手を尊重する態度などの武道の伝統的な考え方を学ぶという視点を重視して授業に取り組んだ。

地域の指導者から、武道に対する考え方や礼法の基本などを丁寧に指導してもらい、生徒達も徐々に柔道に対する興味関心が出てくる様子が見られた。技能面についても、受け身や固め技などの基本をわかりやすい指導で、効果的であった。

【柔道の授業を終えての感想】

1年男子の授業の感想より

最初は、柔道は嫌だなあって思っていました。なぜなら僕は、柔道は危険だし、したことがなかったので、どうせ上手な人に負けるだけで全くおもしろくないスポーツだと思っていたからです。でも、柔道は投げるだけじゃなくて、相手に礼儀をあらわすスポーツであることが分かりました。技をかけるときも、ただかけるだけでは上手に出来るわけではなく、相手を崩してから投げるという頭脳戦であることも分かりました。柔道がとてもおもしろいことが分かりました。

地域の指導者と連携を図りながら生徒
の意欲を高める実践例

学 校 名 白老町立萩野中学校（北海道）全学年

電 話 番 号 0144（83）2302

全校生徒数 108 名（男子 53 名 女子 55 名）

種 目 等 武道（剣道）

1 研究のねらい

- （1）生徒が興味・関心をもって楽しく学習することができる指導計画の工夫
- （2）地域の指導者との連携による剣道授業の工夫

2 研究の取組体制

- （1）地域の指導者（剣道連盟）との円滑な連携に向けた町教育委員会との連絡調整
 - ①構成メンバーは、教育委員会指導主幹、剣道連盟会長、教頭
 - ②開催時期は、授業実施前（11 月）、授業実施中（1 月、2 月）、授業実施後（2 月）
- （2）地域の指導者と保健体育科教員による指導体制及び指導内容に関する打合せ
 - ①指導前は、単元全体の指導計画の確認や指導方針及び指導体制等に関する打合せ（12 月）
 - ②指導中は、週の最初に生徒の技能の習熟の程度に応じた指導内容に関する打合せ（12 回）

3 研究の概要

- （1）生徒個々の能力に応じた指導方法の工夫・改善
 - ①初めて剣道に触れる生徒であることを考慮し、技能の習熟の程度に応じた適切な練習内容を通して「できる」「分かる」ことを味わい、剣道の楽しさを引き出せるよう配慮した。
 - ②相手と直接的に攻防するという剣道の特性に触れ、楽しく学ぶことができるよう、構えや体さばき、基本打突など基本動作を確実に身に付けることができる指導計画とした。
- （2）剣道の特性に触れさせる指導の充実
 - ①伝統的な行動の仕方を身に付けるなどの剣道を学ぶ意義はもとより、相手を尊重したり自分を律したりする態度を身に付けるなどの礼法を行う意味を生徒に理解させる指導を徹底した。
 - ②礼法や体育館でのマナー、剣道の歴史や特性については、単元の最初の授業で重点的に取り扱うとともに、授業全体を通じ継続して指導するよう地域の指導者と共通理解を図った。
- （3）外部指導者との役割分担における指導体制の整備
 - ①町教育委員会及び地域の剣道連盟と連携を図りながら、地域の指導者を確保した。
 - ②授業では、保健体育教員が単元の目標や評価規準、指導内容等を明確にした指導計画を作成し、その計画に基づいた全体指導を行うとともに、外部指導者が技能面に関する専門的な指導や安全面に配慮した指導を行うなど、役割分担を明確にした指導体制を整備した。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 生徒の健康状態の把握及び、道場となる体育館や防具等の安全点検を実施した。
- 2 技能の習熟の程度に応じた段階的な指導等、安全を確保するための指導体制を工夫した。
- 3 地域の指導者との綿密な打合せを通じた運動を苦手とする生徒への個別指導を行った。

○成果と課題

- 1 地域の指導者との連携による指導体制を整備し、生徒の能力に応じた指導方法を工夫したことにより、共通理解に基づいた指導が徹底されるとともに、安全に授業を行うことができた。
- 2 地域の指導者の専門的かつ分かりやすい説明や模範演技、実技指導により、生徒の興味・関心を引き出すとともに、剣道授業を楽しみながら基本動作等を身に付けることができた。
- 3 剣道の面白さを引き出す指導の充実に向け、「必要以上の反復」をなくし、飽きさせない指導に努めるとともに、攻防の要素を取り入れた練習等、実践的な学習を取り入れる必要がある。

○研究内容

【生徒の興味・関心を引き出す資料の作成】

地域の指導者の協力をいただき、剣道授業への興味・関心を引き出す資料を作成しています。



【剣道の特性に触れさせる指導の充実】

礼法の理解に向け、最初の授業で重点的に指導するとともに、次時以降も継続して指導を行っています。



【生徒の技能の程度に応じた指導方法の工夫①】

基本動作に関する技能の確実な定着を図るため、反復練習を取り入れています。



【生徒の技能の程度に応じた指導方法の工夫②】

体の動かし方や竹刀の振り方など、生徒一人一人の技能の習熟の程度に応じて直接助言しています。



【外部指導者による専門的な指導】

正しい基本動作を習得できるようにするため、地域の指導者による模範演技を効果的に取り入れています。



【実践を通じた感想】

〈保健体育教員の感想〉

当初は地域の指導者との連携による指導に戸惑いも感じられたが、町教育委員会を中心とした本事業に関わる多くの方々の協力により、授業を円滑に行うことができた。

また、地域の指導者の示範や実技指導に触れることにより、専門的な知識や技能を習得するなど、自らの指導力向上に生かすことができた。

〈3年生女子生徒の感想〉

剣道の授業を初めて学習しましたが、こんなにも礼節を重んじるスポーツだとは思わず、大変驚きました。

また、外部指導者の先生から、竹刀の振り方や体の動かし方などを分かりやすく教えていただいたので、興味・関心をもって楽しく授業に取り組むことができました。